

名 誉 博 士 候 補 者 調 書

フリガナ ペンギラン・セティア・ネガラ・ペンギラン・ハジ・モハメド・ユスフ・
ビン・ペンギラン・ハジ・アブドル・ラヒム
氏 名 Pengiran Setia Negara Pengiran Haji Mohd Yusuf bin Pengiran Haji
Abdul Rahim.

業 績

ペンギラン・セティア・ネガラ・ペンギラン・ハジ・モハメド・ユスフ・ビン・ペンギラン・ハジ・アブドル・ラヒム氏は、1944年に当時の国費留学生制度であった南方特別留学生として来日し、1945年4月に広島大学の前身校である広島文理科大学に入学した。しかしながら、勉学半ばして同年8月6日に広島市内で被爆。奇跡的に難を逃れ、被爆に苦しむ広島市民の救助に尽力した。当時、広島文理科大学で一緒に学んでいた南方特別留学生のニック・ユソフ氏とサイド・オマール氏は被爆死し、今も広島と京都で眠っている。後年、自らの被爆体験や広島での経験をブルネイ国内で伝え、平和活動の推進に大きく貢献した。

帰国後、英国の保護国であったブルネイで、バリサ・パムダ党の結成に関わり、同党の幹事長としてブルネイ社会で頭角をあらわしていく。自ら国王賛歌をペンネーム、ユリ・ハリムの名前で書き上げると、政府から国家として正式に採用され、ブルネイ国民を大きく勇気づけた。

また、1957年に国王によって立法協議会会員に任命され、その後、ブルネイ憲法起草委員会委員12名の一人に選ばれ委員会の事務局長を務めた。立案された憲法草案は民主的な手続きを経て英国政府の承認を得て、1959年9月にブルネイ市で举行された式典で国王と英国南アジア統括理事が署名し、正式に憲法として採択された。1966年には総理大臣に任命され、首相在任中、民生安定に全力を注ぎブルネイ国民の生活改善に大きく貢献した。

国務長官在任中は、天然ガスの対日輸出を開始し、日本企業と協力して対日安定供給に道を開いた。また、ブルネイ日本友好協会の創設と日本との国交回復の際にも大きな役割を果たし、1985年に日本政府より勲一等旭日大綬章を受章。2001年には駐日ブルネイ大使にも任命され両国間の友好関係に大きく寄与している。また、本学にも何度となく表敬訪問されるとともに、現在でもブルネイ日本友好協会名誉会長として活躍され、東日本大震災の被災地への慰問等の活動に尽力されている。

以上のように、同人は日本とブルネイの友好関係の強化に努めるとともにブルネイの独立や発展にも多大に貢献した。また、被爆直後も広島市民の救助に尽力するとともに、帰国後も自らの被爆体験や本学での経験をブルネイ国内で伝え、本学の基本理念の一つである「平和を希求する精神」の実現に大きく貢献しており、本学の教育・研究並びに国際交流の推進に寄与した功績は極めて顕著であり、本学の名誉博士号の称号を授与すべき候補者として推薦するものである。